

簿記教育による人間形成

— 簿記塾の活動報告 —

蛭川 幹夫

要 旨

城西大学で部活動としての簿記塾を指導して14年間が経過した。ここでの活動を通して、学問による人間形成やアクティブ・ラーニング、そして大学における部活動について考える。

キーワード：学問による人間形成，部活動，アクティブ・ラーニング，蛭川簿記塾

1. はじめに

2003年（平成15年）2月、本学の建学の理念である「学問による人間形成」の具現化、ならびに商業高校卒業生に対する簿記会計の継続教育の保障を目的として蛭川簿記塾（以下簿記塾と略す）を開設した。その後、現在に至るまで現1年生を含め121名の学生が簿記塾で学んでいる。14年間経った今、簿記塾の活動が「学問による人間形成」に貢献できているのか検証してみる。

2. 簿記塾の開設

日本では、2009年度に4年制大学への進学率が初めて50%を超え、大学全入時代とか大学のユニバーサル化と言われるようになるとともに、能力的には高いものを持っていながら、学習に対するモチベーションの低さとともに、「自信がない」、「夢や目標がない」、「何をすればよいか分からない」等々の理由から、なんとなく大学生活を送っている学生の増加がみられるようになった。大学に十分な教育カリキュラムが用意され、素晴らしい教師集団がいるにも関わらず、筆者が城西大学で教鞭をとることになった1997年（平成9年）頃

にも、すでにそのような兆候が見られた。

大学全入時代に入った現在、学問分野の研究者が学生に講義をすることで大学の教育サービスが完結すると考えている関係者は少ないであろう。しかし、効果的な対処法はまだまだ見いだせていないというのが現状である。そのようななか、筆者は大学全入時代の今こそ中学や高等学校で行われている部活動に学ぶべきヒントがあると考ええる。

最近では、教員の多忙化との関連で部活動が話題に上がっているが、学校生活における部活動の意義は大きい。生徒にとっては部活動は教科の勉強と同じように大きなウエイトを占めるものであり、その経験がその後の人生を生きていくうえで精神的に大きな影響を与えてくれることは、部活動を経験した多くの大人が知ることである。そのこともあり、文科省は高等学校学習指導要領の第1章総則第5款の5の(13)で「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。(以下略)」と、教育課程外の部活動について、その意義等について示している。

部活動には次のような特徴がある。①学年や学級を超えた集団活動であることから、生徒にとって責任感・協調性・指導力・積極性・自立性・社会性等々が養われる。②自らの興味や関心にもとづき頑張ることで自己実現感の獲得につながる。③生徒と指導教員の間に信頼関係が生まれることで、いわゆる人間教育が可能となる。④教師の指導のもとに部活動がおこなわれるため、教師のしっかりした部活動に対する教育理念とそれにもとづく指導力が要求される。

こうした特徴をもつ部活動は豊かな人間性や健康・体力を育てるだけでなく、生徒にとってはクラブ活動をとおして自らの居場所・目標を持つことができ豊かな学生生活の原動力になる。

大学にも部活動は存在する。そして、体育会系の部活動を中心に人間形成が効果的に行われている。しかし、部活動を通しての「学問による人間形成」となると例は少ない。そこで、2003年（平成15年）2月、本学の建学の理念である「学問による人間形成」の具現化、ならびに商業高校卒業生に対する継続教育の保障を目的として、多くの商業高校にみられる簿記部の大学版として簿記塾を開設した。

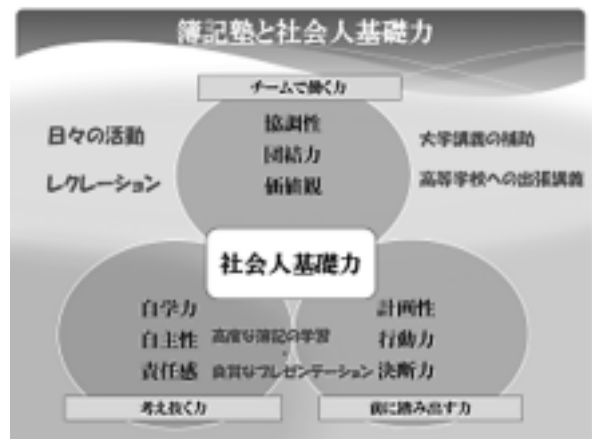
3. 簿記塾の概要

(1) 目的・目標

【簿記塾の目的】

簿記塾の目的の一つは、城西大学に入学した学生が**有意義な大学生活を送る**ことにある。一方、本学の建学の精神である「学問による人間形成」を具現化するために、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力の育成（**社会人基礎力の育成**）をもう一つの目的とした。

ではなぜ簿記か。その理由の一つは、経営学部の教育の特徴の一つにミニマムスタンダード^(注1)



があり、それに簿記が含まれており、かつ筆者がその責任教員であることによる。いま一つは、筆者が熊谷商業高校時代の8年間、部活動で簿記部を指導し、それなりの成果を上げることができた^(注2)という過去の経験による。

簿記には検定試験があり、学習の進捗と検定試験との間に高い相関関係がある。かつ3級から2級、1級へと、つねに目標を設定しそれに向かって頑張ることができるという特徴がある。さらに、簿記の学習には知識と技術の修得が必要であるが、技術の修得については検定試験の勉強と同様に、仲間と相談しながら学習すると効果的である。また、筆者の感覚であるが商業高校生は大学入試等で受験競争にさらされていないためか、理解の高い生徒が理解の低い生徒に分からないところを教えることに関して非常に寛容である。以上から、簿記は部活動となじみやすい。

【簿記塾の目標】

簿記塾が目指すのは、簿記の検定試験の中で最も規模が大きく、歴史も古い日本商工会議所が主催する簿記検定試験（以後、日商簿記検定と略す）の1級合格である。日商1級のレベルは、「極めて高度な商業簿記、工業簿記、原価計算を修得し、会計基準や会社法、財務諸表規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができる。大学等で専門に学ぶ者に期待するレベル」（日本商工会議所）と言われ、その合

格率は10%弱である。多くは公認会計士や税理士など職業会計生を目指す受験生が、その実力を試すために受験しており、それ以外の人々の合格率は3%弱と言われている。

就職等社会的な要請からは日商2級合格が一つの目安である。しかし、簿記塾はさらに難易度の高い日商1級合格を簿記塾の目標においている。目標をできるだけ高く設定することで彼らの内に秘めたる才能を引き出すことができるとともに、日商1級の内容を学ぶことで大企業に就職して財務・会計を担当することになっても困らない簿記・会計に関する知識・技能を習得できると考えるからである。

(2) 簿記塾の活動

【基本方針】

① 学生主体の活動

簿記塾の活動が高校の部活動と大きく異なる点をあげるなら、それは学生主体の活動である。高校では教師の強いリーダーシップのもとに部活動がおこなわれることが多いが、簿記塾は学生の主体性を重視するために、活動の年間計画や新入部員の入部の可否、日常の活動、研修旅行、レクレーション等々は原則として学生が企画・運営する。筆者は顧問として、簿記塾の活動が目的・目標からずれていないか注視し、ずれた場合はそれを指摘し助言するにとどめるようにしている。

② 簿記塾の活動原理

簿記塾は「集団の相互作用の尊重」と「人間尊重・友愛と自由の尊重」を活動の基本方針としている。それは、宮崎和夫編著『生徒指導の理論と実践』(学文社)のなかの「集団の相互作用の尊重」,「人間尊重, 友愛と自由の尊重」の記述にもとづく。筆者がこの部分を読んだとき、過去の部活動の指導経験と照らし合わせてみて、まさに部活動の指導原理を言い当てていると思う、簿記塾の指導の参考としている。同書の「集団の相互作

用の尊重」と「人間尊重, 友愛と自由の尊重」の記述を参考までに記す。

集団の相互作用の尊重 (同書P.15)

集団の民主的な雰囲気の上昇を重視し、成員集団に対する所属感や成員同士の連帯感を高め、各成員にそれぞれの個性を発揮することによって集団に寄与することができるような役割を与え、成員間の相互理解, 相互尊敬および相互作用を高めるように工夫することが必要である

人間尊重, 友愛と自由の尊重 (同書P.16)

集団指導においては、人間尊重の精神を基調として、個々の生徒の自主性の発達や個性の伸長を妨げることがなく、また全ての成員が友愛の精神を基調として、人間として平等な立場で相互に理解し、尊重し、作用しあうものであることを重視しなければならない。

【活動内容】

① 活動時間

活動時間は、通常は週4回(うち1回が全体のミーティング, 残り3回がグループ活動), 長期休暇(夏)は通常活動として22日間(10時~16時), 特別強化活動として5日間(9時~19時)活動する。ちなみにかつて指導した熊谷商業高校簿記部の活動時間より少ない。現在, 部員は40名(うち簿記の初学者7名)である。入学後夏休みまでに退部する学生が毎年1~2名いるが、それ以降は経済的理由等特別の理由を除き退部する学生は少ない。

② 日商簿記検定1級レベルの特別講義

ある程度簿記会計の学習が進んでいる学生(日商簿記検定2級合格者あるいは同検定の受験経験者)を対象に、顧問が日商簿記検定1級の基礎知識を2年間かけて講義する(商業簿記と会計学, 工業簿記と原価計算をそれぞれ隔年で講義)。顧問が簿記塾で講義するのは原則これだけである。

③ 日常の活動内容

主体的・対話的で深い学びを実現するために、

サークル活動は原則として**学生が学生に講義する**形態をとる。このとき顧問は時間の許すかぎり学生の講義（指導法）に対して助言・指導する。教えるためには相当深い知識が必要となる。そのために学生は否が応でも自ら学ぼうとする。この過程で学生に**自学力**、**自主性**、**忍耐力**等が養われる。また、分からないところは積極的に仲間へ聞くこととすることで**協調性**、**連帯感**、**相互尊敬**が養われる。これまで長らく受け身の教育に慣れてきた学生にとっては、仲間の前であっても講義することはとても大変なことである。が、この体験をとおして学生は簿記の面白さを理解するとともに、教えることの喜びや、上手くできたときの満足感、充実感を体験する。最初は稚拙な講義であっても、指導することで学生の**プレゼンテーション能力**は飛躍的に向上する。なお、ここで大切なことは、学生の潜在能力を開花・発展させるために、プレゼンテーションの基準は高く設定し指導することである。学生だからとか簿記能力の有無あるいは成績の良し悪しで指導や助言を妥協しないことである。

④ レクリエーション等

レクリエーションには、人間関係や仲間意識などの社会的効果や、リーダーシップの育成や情操教育などの教育的効果、心理的効果、生理的効果などいろいろな効果が考えられ、**豊かな人間性**を育むためには欠くことのできないものである。簿記塾は活動のメインが学習活動であることから、レクリエーションは積極的に取り入れるようにしている。

恒例のレクリエーション活動としては、6月の新入部員歓迎会、8月の夏季研修旅行（1泊2日）、12月のクリスマス会、2月の卒業旅行（2泊3日全員参加）がある。それ以外にも、不定期に学年単位の飲み会やボーリング大会等が行われることもある。もちろんレクリエーション活動の企画・運営等はすべて学生が行う。このことで担当する幹

事や部長等に**企画力**や**リーダーシップ**、**社会性**が養われる。なお、宿泊を伴う旅行では夕食後宴会を開き、学年単位（全員参加）で出し物を披露することになっている。学年単位の参加であるが、なかには学年で参加した上に、さらに特別出演として、漫才やコントや一発芸を行う猛者も現れ、毎回爆笑の渦に巻き込まれる簿記塾の名物行事になっている。6月の新入部員歓迎会では緊張気味だった新入生も、夏の研修旅行を終えた頃にはすっかり簿記塾の一員となり、大学での自分の居場所を固めるのである。このようにレクリエーションが集団活動に与える影響はとても大きい。

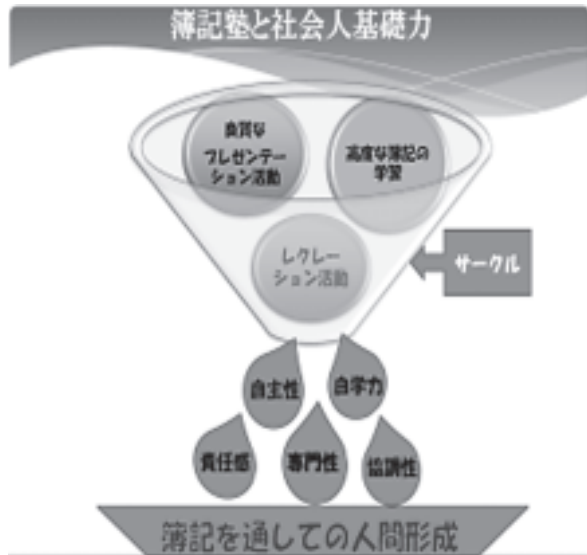
⑤ 英会話の学習

経済・社会のグローバル化にともない、日系企業が外国に工場や子会社等を持つことが普通になってきており、英文によるメールだけでなく外国への出張等も増えている。このようなことから、英語の重要性は増すばかりである。また英語のできる経理マンの需要も増えている。しかし、簿記塾生のなかでも特に商業高校等の卒業生は、共通して英語を苦手とする学生が多い。なかには「英語はまったくダメ」と拒否反応を示す学生も少なくない。そこで、英語アレルギーを取り除く目的から、英会話を簿記塾の活動に取り入れた。講師は簿記塾の副顧問であるデール ゴードン シナ准教授とチア スウ アイ助教である。二人はマレーシアからきた若い女性教員である。両先生は学生がどんなに稚拙な英語で話しても嫌な顔一つせず笑顔で対応してくれるので、英語の苦手な簿記塾生の緊張がほぐれ、楽しい雰囲気の中で英会話の学習ができています。

⑥ 社会貢献活動への積極的参加

現在、簿記塾生は城西大学入試課の要請によるオープンキャンパス補助員、経営学部の必修科目である会計入門Ⅰ・Ⅱの補助指導員、経営学部の入学前体験講座の補助員、近隣の商業高校等に請われての検定試験特別指導補助等に参加協力して

いる。これらには報酬が支払われるものもあるが、大学や社会に貢献できることには、積極的に協力するよう助言してきた。こうした活動に積極的に参加することが、学生の社会性や社会人としての基本的なマナーの修得に役立つ。



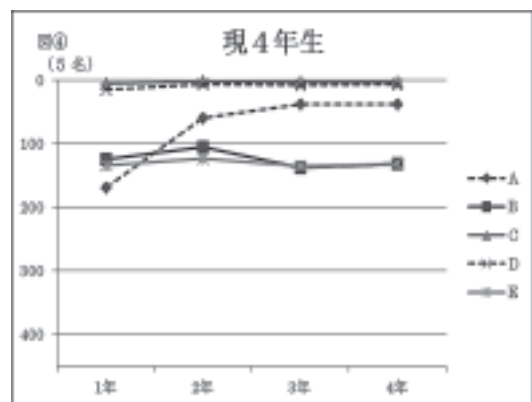
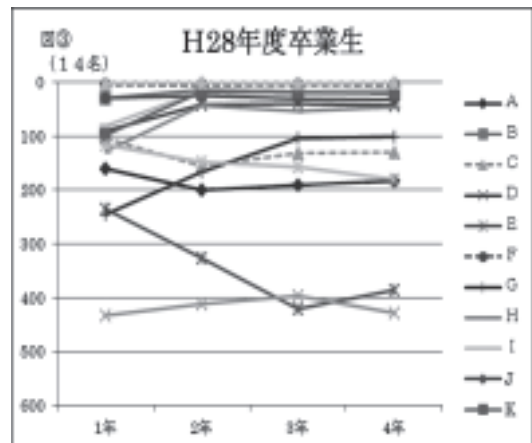
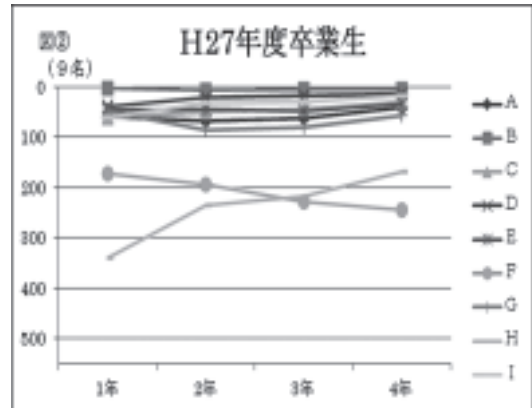
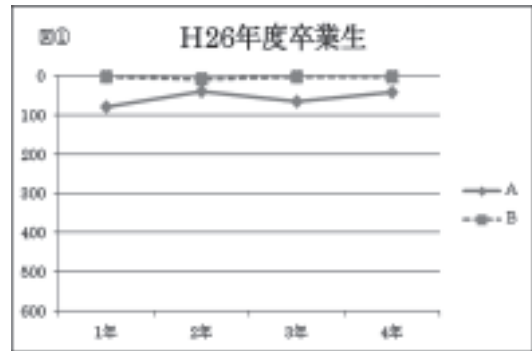
4. 検証

【在学中の成績順位】

以下の図①から図③までは、過去3年間の卒業生（25名）の1年次から4年次までの学年順位を、図④は現4年生（5名）の1年次から4年次（前期末）までの学年順位を示したものである。

図①から図④で次のことを読み取ることができる。

- (ア) 1年次末の成績上位者の多くは4年次までその成績を維持している。
- (イ) どの年度にも成績順位を大きく伸ばしている学生がいる。
 - ・平成27年度卒では339位から169位へ
 - ・平成28年度卒では81位から17位，98位から20位，90位から43位，128位から46位，246位から102位へ。
 - ・現4年生では，169位から38位へ
- (ウ) 平成28年度卒に235位から386位と大きく成



績順位を落としている学生が1名いる。2年次末に進路を一般企業から公務員に変更し、興味が簿記から遠ざかったことが原因と思われる。

次に示す図⑤から図⑦は、上記30名について、高校の調査書に記載されている評定平均値を、4.0以上（Aグループ）、3.7～3.9（Bグループ）、3.2～3.6（Cグループ）の3つのグループに分け表示したものである。

図⑤から図⑦で次のことを読み取ることが出来る。

(ア) いずれのグループの学生も一年次から卒業まで上位の成績を維持している。

(イ) Cグループからは次のような興味のある結果を読み取ることができる。

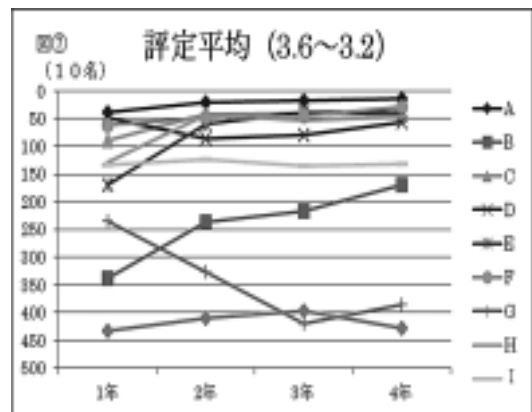
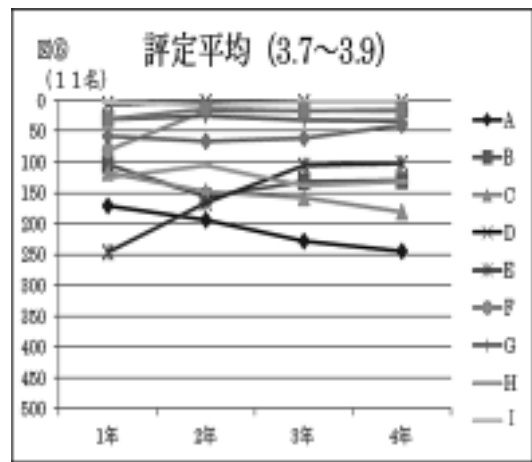
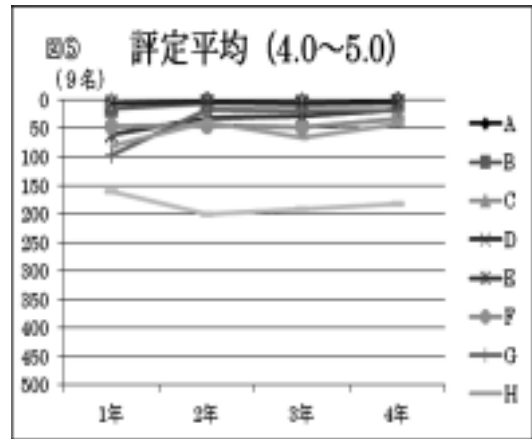
- ・簿記塾が勉強のサークルであることを考えると、Cグループに全体の1/3を占める学生がいることは意外である。

- ・Cグループの学生も1年次から卒業まで上位の成績順位を維持しており、かつ上級学年に進むにしたがって成績順位も上がっている。

169位から38位（ただし、4年前期）まで飛躍的に伸びているのもこのグループの一人である。

【外部評価】

簿記塾の活動で、社会人基礎力が養われたか知るために、「社会に出てから、簿記塾で学んだことが役立っていると感じたことがあったら、【プレゼンテーション能力】【自学心】【忍耐力】【自主性】【協調性】の項目ごとに具体的に記入してください」というアンケートを実施した。卒業生から回収したアンケートのうち主なものを項目ごとに紹介する。



【プレゼンテーション能力】

・大学入学時は人前で話すことが大の苦手であった私ですが、簿記塾でのプレゼン活動を通じて人前でも堂々と話せるようになりました。会社での大勢の会議の司会を任された時、「初めてとは思えない」と上司に言っていただきました。

- ・簿記塾のプレゼンで日商簿記1級の範囲を教えてくださいました。その甲斐があつてか、簿記の知識とプレゼン能力を買われ、入社2年目で新入社員の会計研修の講師を任されました。
- ・組合の研修会で、私も発言の場がありました。終わって、各社の社長やベテラン作業員の方からとても良かったとお褒めの言葉をいただきました。その時にあらためて簿記塾で行ったプレゼン活動が役に立ったのだと思いました。
- ・入社後の総務課研修で、自己紹介と今後の課題についてパワーポイントを使って30分間のプレゼンを行い、そのプレゼンを評価し順位を発表するという研修がありました。そこで、同期の評価と総務部長の評価とともに1位を取ることができました。
- ・自社の商品や特徴などを簡潔にわかり易く説明できるようになった。また、上司や先輩への業務報告の際にも同じように簡潔に説明できた。
- ・会社ではよくマニュアルの作成の指示を受けます。簿記塾で板書の見易さを工夫したり、使いやすいレジユメの作成を行っていた経験が大いに活かされています。国立大学卒の同期に「こんな俺には作れない」と驚かれます。

【自学力】

- ・日商1級という広大な範囲を勉強したことで、自ら学ぶ習慣ができた。そのおかげで最近になって「ほったらかしにしていたけど良く理解できた」と上司に言われた。
- ・簿記塾で日商1級合格に向けて学習したことで文書の読解力や計算力および柔軟な思考力が身についたと思っています。おかげで建設業経理士1級の試験にも合格しました。
- ・現在は宅建や建設業経理士1級の取得に力を注いでいます。簿記塾で上を目指して資格取得に励んだことで、会社の同期や先輩が「今年の受験はやめた」と力を抜いている中でも、自分は朝早く出社して勉強できています。その成果もあつて、選抜で参加できる一泊二日の宅建合宿のメンバーに選んでいただきました。
- ・私が入行して一番生きていることは自学力だと思います。簿記塾では仲間と一緒に目標に向かい勉強しましたが、そのなかで闘争心や時には励ましあつたり切磋琢磨することができました。銀行ではさまざまな資格を取らなければいけません、私は簿記塾で培った自学力のおかげでさまざまな資格を取ることができました。先日人事部の方と面談した際にも同期の中でも資格試験において優秀だと褒めていただきました。簿記塾の生活があつたからこそ今の自分があるのだと時々感じます。

【忍耐力】

- ・私は日商簿記1級という、サークルに入ったときには想像もつかない難しい勉強を通して、忍耐力を学んだ。最初はまったく理解できず、模擬問題で0点をとったこともあつた。自分には向いていないから辞めようと何度も思った。しかし勉強していくにつれ、少しずつではあるが理解できるようになった。おかげで、何事も諦めてはいけない、継続することが大切だということ学んだ。
- ・今、商業高校の教員をめざし頑張っているが、ときどき壁にぶつかることもある。そんな時には簿記塾の4年間を思い出して頑張っている。
- ・会計システムの入替えのときに忍耐力というものを感しました。数千件の資産の減価償却結果の検証など地道な検証を、一人終電近くまで残る生活をおよそ2ヶ月続けました。仲間がいた違いはありますが、目標に向かい困難なことにコツコツ取り組む経験を社会人になる前に簿記塾で経験できたことはよかった。
- ・途中で投げ出さずしっかりとやることの大切さを簿記塾で学び、そのことを、社会人になり飛び込み営業で活かしています。飛び込み営業は、自分で終わりにしようと思えば、いつでも

やめることができず、投げ出したくもありませんが、簿記塾で学んだことを思い出し、いつか結果を残すことができると信じて行動しています。

- ・無理かもしれない1級合格という高い目標を設定することで、我慢や努力することの大切さを知ることができました。甘い環境にいることで成長できることもあると思いますが、厳しい環境に置かれながらも、周りとの切磋琢磨することで自分は大きく変わったかなと思っています。
- ・簿記塾では責任のある渉外を担当したものの、自分とは違う性格を持っている仲間や、まったくわからない簿記と、そんなとても大変な環境にあったけど、それでも私が辞めなかったのは、周りに優しい友達がいたことと、最後まで諦めたくないという強い思いがあったからだと思っています。それが強い忍耐力となって今私を支えてくれています。

【自主性】

- ・簿記塾では、自分から学習するのはもちろんのこと、自分から輪の中に入り何にでも参加して楽しむことを学びました。それが会社に入ってから飲み会や会議の場で活かしました。そんな自分を「ゆとり世代っぽくない」と上司に褒められとても嬉しかったです。

【協調性】

- ・簿記塾で多くの仲間や先生方とかわるなかで、良い意味での「ノリの良さ」を学びました。言葉で表すのは難しいのですが、臆することなく（失礼のないなかで）目上の方々とお近づきになろうと心掛けています。自分の部署だけでなく他の部署の上司や先輩からも「〇〇さんならどこでもやっていける」と入社してから何度も言っただけです。
- ・所属する課の上司に褒められたことがある。それは、「〇〇君が入社してくれたお陰で、会社の所属フロアや担当の課が明るくなって活気づ

いた。そして男女を問わず相手を尊重し、自分の意見などとも言えるところは評価している」というものです。この言葉をいただいた時は本当に嬉しかったです。これらは部長として、簿記塾で良好な人間関係を築く努力をしてきたことが生きているからだと思っています。

- ・上司や先輩方の仕事以外での集まりで積極的に立ち振る舞うことができ、簿記塾で学んだ協調性、社会性が大いに活かされていると実感しています。

【その他】

- ・入社して半年後に全社あげでの運動会が行われ、配属先の拠点の幹事を任されました。翌日、拠点長から、参加者への誘導、説明、仕切り、特にバス移動での仕切りや参加者のお見送りについて高く評価してもらいました。自分では当たり前のことをしただけですが、簿記塾での幹事の経験が生きているのだと思いました。
- ・簿記ができるということで入社してすぐに日常の会計処理を任されました。また、6月には税理士監査にも参加させていただきました。先輩や上司が話す内容がすぐに理解できるのは簿記塾で学んだお陰だと思いました。
- ・高校時代の僕は、野球を通じてしか友達がいなかった気がします。しかし、簿記塾に入ってから民主的な雰囲気の中、いろいろな個性をもった多くの学生と触れ合い、心の通じる友達を作ることができました。私にはとても大きな財産です。
- ・入社してすぐに褒められたことがあります。それは、挨拶がしっかりできることと、率先して動くことです。部活が簿記塾なのに運動部みたいだと褒められました。

5. 総括

前掲の図1から図7そして卒業生から寄せられ

た回答から、簿記塾生は、簿記塾という部活動をとおり自分の居場所を見つけ、仲間と一緒に日商簿記検定1級に挑戦するなかで、生きて働く知識や技能や学びに向かう力、プレゼンテーション能力、協調性、社会性等を修得していると考えられる。もちろん、簿記塾での学びは4年間の大学教育を補完するものでありすべてではないが、簿記塾が「学問による人間形成」に大きく寄与できていることは確信をもって言える。

大学が大衆化した今、学習意欲や目的意識の希薄な学生に対し、どのようなインパクトを与え、主体的に学ぼうとする姿勢や態度を持たせるかは、大学教育にとって重要な課題である。簿記塾の実践を通して、高校の部活動の大学版を作ることその解決策の一つになりうると考える。簿記塾がそうであったように資格取得を伴う情報処理や英会話も良いし、社会人育成グランプリのような大会への参加を目的としたものも考えられる。

学問とは少しかけ離れているが、絵画や書道や陶芸など趣味に関わるものも部活動として相性がよいと考える。

【注】

- (1) すべての学生が簿記・情報・英語において最低限の資格取得を義務付けるというもの
- (2) 主な実績
 - ・簿記競技会の全国大会で団体準優勝、個人総合優勝を果たすなど、各種競技会での上位入賞
 - ・日商簿記検定1級合格者を毎年数名輩出
 - ・簿記部の卒業生7名が商業高校の教員として埼玉県の簿記教育を支えている
 - ・部員数は80名(最大)
- (3) 日商1級合格実績
 - ・平成16年 3名
 - 17年 2名
 - 18年 2名
 - 19年 2名
 - 20年 2名
 - 21年 1名
 - 22年 1名
 - 23年 0名
 - 24年 1名
 - 25年 2名
 - 26年 1名
 - 27年 2名
 - 28年 3名

- (4) 平成28年度卒以前の主な進路先

- 女子**
- (株)エフテック 経理部 (東証一部)
 - 富士火災海上保険(株)
 - 千代田運輸(株) 人事総務部
 - 埼玉りそな銀行(株) 営業課・事務
 - 日本事務器(株) システムエンジニア (非上場)
 - NOK(株) 熊谷物流管理課 (東証一部)
 - (株)東北ベガス 経理部
 - 福島県立福島商業高校教諭 (商業)
 - 埼玉県立八潮南高校教諭 (商業)
 - 埼玉県立川口県陽高校 (臨時採用)
- 男子**
- (株)セブン-イレブン・ジャパン
 - オペレーションフィールドカウンセラー (東証一部)
 - (株)マミーマート 財務部 (JASDAQ)
 - (株)エコス 営業 (東証一部)
 - 武州製薬株式会社 経理企画業務
 - 東光株式会社 経理部 (東証一部)
 - マークテック(株) 経理部 (JASDAQ)
 - (株)エフテック 経理部 (東証一部)
 - (株)経理バンク 総合職
 - (株)金子製作所 総務部
 - (株)パルコ WEBコミュニケーション部 (東証一部)
 - (株)しまむら (東証一部)
 - 関東ロックウール(株) 経理
 - マルキュー(株) 管理部経理課

(株)アックスコンサルティング 経営戦略事業部
佐藤工業(株) 経理部
東邦工業(株) 総務部総務課
(株)島村工業 総管理部 原価管理課
埼玉県警察
埼玉県立狭山経済高校教諭 (商業)

埼玉県立大宮商業高校教諭 (商業)
埼玉県立深谷商業高校教諭 (商業)
埼玉県立幸手桜高校教諭 (商業)
千葉県小学校教諭
埼玉県立所沢商業高校 (臨時採用)

Character Building through Bookkeeping
—— Actibity Report on Bokijuku ——